

令和 4 年 2 月 14 日

< ワンポイント・レッスン（理論・基礎知識） >
（ウェイト、寄与度、変化率）

先週末に日本銀行から発表された 22 年 1 月の国内企業物価指数は、前月比 0.6% の上昇、前年同月比は 8.6% の上昇でした。

そして、前月比で上昇・下落した主な類別・品目が、国内企業物価指数、輸出物価指数（契約通貨ベース）、輸入物価指数（契約通貨ベース）で寄与度が公表されています。22 年 1 月の企業物価指数に大きく影響を与えた、類別は石油・石炭製品、その主な品目はガソリン・軽油・A 重油でした。

	ウェイト	2021年12月	2022年1月	変化率	寄与度
国内企業物価指数	1000.0	108.9	109.5	0.6	
石油・石炭製品	59.5	128.5	133.4	3.8	0.27
電力・都市ガス・水道	67.1	103.7	105.3	1.5	0.10
非鉄金属	27.1	136.0	139.4	2.5	0.08
鉄鋼	51.7	138.1	139.7	1.2	0.08
化学製品	89.2	102.5	103.4	0.9	0.08
スクラップ類	4.9	193.9	190.6	-1.7	-0.01
農林水産物	35.8	106.0	101.8	-4.0	-0.14

日本銀行発表データに、「変化率」を追加しました。

寄与度は、合計の変動に対して、ここでは類別・品目がどの程度貢献したのかの数値。個々の類別・品目の寄与度を合計すると、合計の変動となります。

寄与度は、ここでは、

$$\text{寄与度} = \left(\frac{\text{（今月の類別・品目の指数値} - \text{前月の同指数値）} \times \text{同ウェイト}}{\text{（全体の前月の指数値} \times \text{全体のウェイト）}} \right) \times 100 \text{ で計算されます。}$$

上記の石油・石炭は前月比で 3.8% 上昇していますが、ウェイトは全体 1000 の中で 59.5 なので、それほど大きく総合指数に影響をあたえていないといえます。ちなみに、国内企業物価指数でウェイトが高いのは、飲食料品 141.3、輸送用機器 149.0、化学製品の 84.9 などです。あと、寄与率もありますが、ここでは割愛です。

（了）